小学生の部

2,016作品

推進委員長賞 自分以外の人たちに

さくら小学校 6年生 旭 香鈴さん

31万1211件これは。何の件数だと思いますか。これは、2018年度に小学校でおきた、「いじめ」の件数です。いじめの件数は年々減るどころか増えています。これは、すごく深刻な社会問題です。

いじめの原因として、あげられるものの多くは「人間関係のトラブル」でしょう。自分とちがう考え方で気にいらないから無視するなどがあると思います。ほかにも、自分と違う見ためだからいじめるや自分より弱いからいじめるなど自己中心的に考えている人が多いためいじめはへらないのだと思います。どんなにやさしい人でも、苦手な人、嫌いな人の一人や二人いると思います。だからって、その人を無視したり、暴力をふるう行為はよくないことだと思います。

いじめは人との気持ちのすれちがいなどでもおこるものです。もちろん自分以外の気持ちは、分からないものです。他人の気持ちを考えることはとても大切だと思います。私も、こんな体験をしたことがありました。これは、二年前のことです。学校の行事で長野県に四年生が行きました。そこでバスのすわる席を決める時二つの意見にわかれました。一つは、最初に決めた席がいいという人と、もう一つは最初とはちがう人ととなりになりたいというようにわかれました。私は、荷物が多かったので最初の席のままがいいといっていました。おたがいゆずり合わず結局ケンカになってしまいました。今、思えばこのおきたケンカは自分のことばかり考えていて相手のことを考えていなかったのでおきてしまったのだと思います。その後、みんなで話合いをして仲直りをして仲良くしています。このことは丸くおさまって、後でどうすればよかったとはなせていますが、いじめはそうはいきません。320人これはなんの人数だと思いますか。これは、小中高生の中でおきたいじめが原因で自殺してしまった人の人数です。死にたいと思ってしまうほど精神的、肉体的に追いつめられてしまうのです。死んでしまったと単純なことではなくいじめていた人が殺してしまったも同然ではないでしょうか。

いじめは、後から後悔してももう遅いのです。

生まれつき障がいを持っている人や事故などにより障がいを持つようになった人なども、いじめではないのですが、差別されています。先ほど述べたのですが、いじめは見た目が自分とちがうからおきると述べましたが、差別も同じようにおこります。とくに、障がいがある人はまわりの人とは少しちがう見ためと思う人が多いです。私の家の近くには、障がいがある人たちが交流したりする施設があります。引越して来たばかりのことです。私は、どこにどんな建物があるのか分かりませんでした。その時、ちょうど障がいがある人たちがお散歩のため外に出てきました。まだ小さかった私は、周りの人とちがう見た目の人などが多く、出てきておどろいてしまいました。小さかったからしかたがないでは、このことはすましてはいけないと思います。たとえば、障がいがない人が散歩をしていてもびっくりしませんよね。でも、障がいがある人が散歩していたらおどろいてしまう、それは障がいがある人と周りの人を比べて差別しているからそう感じるのだと思いました。

私は、いじめがなくならないそれは差別がなくならない理由とそう変わらないと思います。いじめは、いじめられる人をかばったら自分がいじめられるからという理由で止められない。差別は、自分が基準だと思うようになっているからまたは、自分の周りの人が基準だと思うからなくならないのだと思います。つまり、両方とも自分のことばかり考えているからなくならないのだと思います。

私も、いじめをやめさせようとしたらいじめられる人が自分になると分かっていたらきっと止められないと思います。でも、いじめや差別はぜったいになくしていかないといけません。なので、私ははじまってからでは止められない「いじめ」を減らすためには、はじまる前にとめることができればいいと思います。多くの人が自分を守ろうと考える時に自分以外の人にも気をくばろうとすればはじまるまえになくすことができると思います。差別も同じように、一人一人が自分以外の人をもっと気にかけていけばへると思います。でも、これだけではとまらないこともあると思うので、もしいじめられている人などをみたり知っていたら相談にのったり大人を頼ることも大切だと思います。

私も、このようなことをひび心がけていきたいです。みんながそうなってよりよい世の中になっていってほしいです。

常任委員長賞 「社会を明るくするために」

さくら小学校 5年生 兵藤 杏樹さん

「社会を明るくする」とはどういうことだろう?

国語辞典で引くと、社会とは、「世の中」のこと、世の中とは、「人々が生活している場」であることが分かった。では、世の中を明るくするとは、どういうことだろう。明るいとは、「光がたくさんあり、物がはっきり見える・さわやかである」様子だという。つまり、社会を明るくするとは、「人々が住んでいる場所で、人々は気持ちよくすごせる」ということなのではないか。

最近、私は、物事には、一人だけではできないことがある、と思うようになった。

例えば、毎年行われている「地いきの祭り」では、最初は一人で祭りに参加していたが、少しずつ友達もふえて、学校以外の地いきの友達もできていった。そして、祭りには、たくさんの大人や、お年より、みんなが安全に楽しくお祭りに参加できるように、様ざまな用意や工夫をしてくださっていることに気がついた。祭りは、多くの人々に支えられていたのだ。それから、祭りがもっと楽しくなり、私は、ゴミ拾いに協力したり、小さな子の面どうを見るようになった。

また、春休みに行われた「こどものまちをつくろう」というイベントでは、仕事をする大変さと楽しさを知った。

子ども通貨の世界の中で、自分で起業するには、まず土地を買わなければならず、そのためには働くことで賃金を得なければならない。土地を買えるまでに、私は二日にかけて働いた。

そして、三日目に、私は「ネイルサロン」を起業した。

お客の年令や性別・安全性も考えて、アクリル絵の具で様ざまなもようをデザインして、サンプルを用意した。事前に家で練習したが、つめにきれいに描くことは想像以上にむずかしく、兄の指を借りながら、必死に練習した。

起業当日、開店と同時にお客の行列ができた。四時間位だったと思うが、その行列はずっと続き、私はつめに色をぬり続けた。四時間の間、きんちょうしながら集中し続けることは、今までに経験したことがない大変なことで、一日が終わり、家に帰宅してから、ホッとして、私は、わぁわぁ泣いた。

働く大変さと、賃金を得ることのうれしさ、そして、とちゅうで仕事を手伝ってくれた人のことなどを通じて、一人だけではできないことがあることと、色いろな仕事や役割りがあるのだということを経験した。

お年よりから赤ちゃんまで、様ざまな人々が住んでいる場所で、生活を豊かにする商品が売られていたり、それを買うために働いてお金を得る人々がいて、みんなが笑顔でいられるということが、明るい社会なのではないかな、と思った。

みんなが笑顔でいるには、話し合ったり、理解したり、声をかけ合うことがとても大切だと思う。

あいさつすることや、持ち物やゴミをリサイクルすることでかんきょうおせんを防ぐ、など、一人一人が、「一人でもできること」をしながら、「みんな」で協力していくと、「一人ではできないこと」も実現できると思う。

地球は、「大きな社会」なのだ。すべての人が気持ちよく住める社会についてみんなで話し合い、協力しながら、明るい地球にしていきたい。

常任委員長賞 小さな勇気で明るい社会を

仰高小学校 6年生 増谷 玲花さん

母と池袋に行った帰り、夕方の電車は少し混んでいました。座席には座れず、立っていた私の斜め前の席に、大きな荷物を持って、赤ちゃんを抱っこした女の人が座っていて、前にベビーカーをたたんでたてありました。「いいな、赤ちゃん、小さくてかわいい。」と私は赤ちゃんの方を見ていました。電車が次の駅に着くと、女の人は、右手に赤ちゃんを抱っこして、荷物を反対の手に持って立ち上がりました。さらに、左手でベビーカーをつかもうとしたそのときです。突然、私の母が、

「お手伝いしますね!」

というと、ベビーカーを持って、

「降りまーす!」

と大きな声で言いました。周りの人がどいてくれて、母はベビーカーを持って、さっさとホームに降りました。そして、ベビーカーを広げて

「はい、どうぞ」

と女の人に言うと、私の手をにぎって電車の中に戻りました。女の人は、

「ありがとうございます!とても助かりました。」

ととてもうれしそうでした。

電車の中で

「知っている人だったの?」

と聞くと、

「知らない人だったけれど、大変そうだったから。ママも子どもが小さい時、助けてもらってうれしかったのよ。」

といいました。私だったら絶対に無理だと感じました。

それから三ヵ月位たったある日のことです。私は、姉と駅で待ち合わせをしていました。すると、私の前の階段のところで、足が悪そうなのに、右手にお花、左手にはバッグを持った一人のおばあさんが困った様子で立っていました。そのおばあさんの周りを歩いている人はたくさんいるのに、だれもおばあさんのお手伝いをしようとしていません。私は突然、母がベビーカーを持ってあげた時の、女の人のうれしそうな笑顔を思い出しました。勇気をふりしぼって、

「お花、持っていましょうか。」

とたずねると、おばあさんは、

「まぁ、ありがとう」

と言ってゆっくり階段を上りました。

「ありがとう、本当にありがとうね」

おばあさんは素敵な笑顔を見せながら、何度も私にお礼を言ってくれました。

知らない人に声をかけるのは、私にとってとても勇気のいることでした。でも、ほんのちょっとの勇気を出せば困っている人は助かってうれしいし、自分も喜んでもらえてうれしくなります。そういうことを一人ひとりがしていくことでよりよい世の中をつくっていくことができます。だから、私は、これからも、困っている人がいたら、勇気を出して、声をかけてみたいです。

中学生の部

423作品

推進委員長賞 最高のプレゼント「命」

巣鴨北中学校 2年生 古川 来凪さん

平成最後の春。東池袋の交差点で悲しい事故が起きました。車が暴走し、親子二人が亡くなった事故です。私は、家族と一緒に手を合わせに行きました。そこには、たくさんの花束とお菓子が置かれていました。朝まで元気に「おはよう。」と言っていた子が一瞬で命をなくしてしまいました。そして、私はその事故を通して学んだ事が四つあります。

一つ目は、親から大切なプレゼント「命」をもらった事に心から感謝しなければいけないという事です。生きている事はあたり前ではありません。だからこそ一日一日を大切に一生懸命生きる事が大切だと思います。感謝を形、思い出に残していきたいと思います。「今日は、一日何が楽しかった。」と一つでもいいから両親に伝える事が私は大切だと思いました。

二つ目は、人を大切にする、という事です。大好きな家族、仲間、先生。仲が良いからこそケンカをする事もあると思います。でも、絶対に仲直りして帰らないといけないと思いました。人はいつ死んでしまうか分かりません。ケンカしたまま家に帰って次の日、学校に行ったらもういないかもしれません。そうしたら一生後悔します。大切な人達を大事に毎日を生きていこうと思いました。

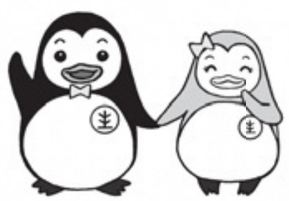
三つ目は、一つ一つの物にも命があるという事を意識して使っていきたいと思った事です。自分の部屋の中を見ると、机やイス、木の命は私を支えてくれている事が見えてきました。今までの私は時間がない時、机の中にイスを乱暴に入れて靴のかかとを踏んで出てきていました。だから、自分の命を犠牲にしてまで私達の日々を陰で支えてくれている物達を大切にしていこうと思えたのです。

四つ目は、自殺や殺人事件が頻繁に起きているこの時代を私は変えたいなと思った事です。私は最近よく「ポエム」を読んでいます。そのポエムの中で気になったものがあります。それは、

「君が死にたいと思った今日は、昨日亡くなった人が必死で生きようとした明日だ。」

というポエムです。昨日、事故や病気でこの世界から何人の人が亡くなったのか、東池袋の事故があるまではあまり考えた事がありませんでした。あの事故を身近で経験した事で私は、命に対する考えを深める事ができました。そして、自殺や殺人事件を一つでも多くなくすためにできる事は、まず自分のクラス、学年でイジメをしない事です。一人の頑張りでみんながついてきてくれます。みんなで命を支え、つないでいきたいです。

普段、友達と遊んだり、勉強したり、部活に行ったり。でもそれができるのは何よりも大事な「命」があるからです。どんなに嫌な一日があってもしっかり生きたんだから、自慢げに「今日を生きた。」と思っていいと思いました。生きている限り可能性は、無限大です。親からもらった最高のプレゼントと共に毎日輝いて生きていきたいです。「命」ありがとう。



更生ペンギンのホゴちゃん　更生ペンギンのサラちゃん

常任委員長賞 言葉の力

千登世橋中学校 1年生 林 美羽香さん

「え、なんで!?」「今後は日本に住んで、日本の学校に通わない?」

五年前、母からいきなり日本に来てほしいと言われた。私はそれまでずっと海外に住んでいたので急にそんなことを言われても、なにも言葉がわからないのに…それなのに私は元気よく「うん!いいよ」と言ってしまった。前の学校では友達もたくさんいて、男子も女子もみんな仲がよかったので毎日楽しく過していた。だから私は日本の学校に行ってもそうなるだろうと思っていた。

けれど、現実はちがった。なにも言葉がわからないので、授業もわからない、友達もできない、そしていやがらせをされる。いつでも私は一人ぼっちだった。この時、私は初めて日本に来たことを後悔をした。そして、学校に行きたくなくなった。今まで学校は私にとって楽しい場所だったのに、今はまるで苦しい思いをするところみたいな場所に。けれど母はとても厳しい人なので、「学校に行きたくない」なんて言うと、まずいことになる。だから私は、いやいやで学校に行っていた。

そんなある日、「今日も疲れたー」みたいな顔で帰って来た私に、母は「最近なにかあった?」と聞いて来た。私はおもわず母にすべてを言ってしまった。「友達ができない」「日本語をしゃべれない」…話をしているうちに涙が止まらなくなった。最後に「もう学校に行きたくない!」そう言ったら母は怒るだろうと思っていた。けれど、母は怒るのではなくやさしく、私に「大丈夫‼ お母さんだって前はそうだったんだから。友達はまだいなくてもいい!今は一生けん命に頑張るの。そのうちに友達ができるのよ」と言ってくれた。そして最後に「お母さんもあなたの友達よ」と言った。母は私をしかるのではなく、励ましてくれた。私はとてもうれしい気持ちと頑張ろうという気持ちでいっぱいになった。

お母さん、ありがとう。

その日から、毎日がんばって勉強した。一人ぼっちでトイレでこっそり泣いた時に母の言葉を思い出して涙をふいた。

それから五ヵ月後、私はみんなと話せるようになった。たくさん泣いて、たくさん笑って、みんなと過ごした日々が思い出となった。たくさん友達ができて、うれしかった。今では私をずっと支えてくれた親友までいるのだ!

いままで、私ががんばれたのは誰のおかげかな?母かな?いや、母の言ってくれた言葉のおかげだ。なにか自分にとって頭に残る言葉を聞くと、その人には、励ましの言葉になるのではないか。人間はみんな感じ方が違う。だからこそ大切だと思う言葉も違う。

今、前の私のように一人ぼっちでいる人がいれば、その人に声をかけてあげませんか。また、一人ぼっちのあなたは、勇気を出して頑張ってみませんか?

優秀賞 スマホを置いて、目を見て話そう

千登世橋中学校 1年生 酒巻 さくらこさん

最近、私の友達の多くがスマホを持ち始めました。正直、私は「中学生でスマホを持つなんて早い」と思っていました。なぜなら、大人でもSNSなどでトラブルが起きているからです。

また、さみしいのは、いつでもスマホを気にしている人がいるという事です。実際に、私がそう感じた出来事がありました。その日は、久しぶりに小学生の時の仲の良かった友達と遊ぶ日でした。私は楽しみでうきうきしていました。しかし、友達は遊んでいる途中途中に、スマホを気にしている様子でした。私は、かすかに違和感を覚えました。みなさんはこれをどう感じるでしょう。私は少しさみしくなりました。友達の態度は、いつも通り優しいのに、私の心の中には、何かもやもやしたものがありました。

私はスマホを持った事がないから分からないけれど、相手の目を見て伝える、という事が、どれだけ大切か、多くの人がだんだんと忘れてきている気がします。よくありがちなのが、「軽い気持ちで書いた言葉が、相手の心を傷つけていた」という事です。しかし、もしこれが直接相手に会って話をしていたらどうでしょう。誤って傷つけるなんて事はない可能性が、とても高くなります。確かに、メールなどで、遠くからでもすぐに情報を伝えられるのは便利で、見方によっては、すばらしい事です。けれど、メールなどは、必要な事だけをかくのが一番良いと思います。ですが、私もスマホを持ったら、きっと楽しくなって、会話したい事をかきたくなると思います。だから、やはり相手がどう思うか考えて書く事は、とても大切だと思います。

そして、私がどうしても伝えたい事があります。それは、実際に友達に会う事が、とても楽しいという事です。また、相手から元気をもらう事だってあるはずです。

想像してみてください。自分が落ち込んでいる時、だれかに励ましてもらえる。たとえ言葉を交わさなくても、何か温かいものを感じませんか。なぜそう感じるのか、私は考えてみました。それは、人が相手を想う気持ちは表情、声の色、雰囲気、しぐさで伝わるからではないでしょうか。

本当に会いたい人なら、会えるように努力してみませんか。スマホの画面から目を離し、大切な人に会いに行きませんか。少し難しいという人もいるかもしれません。けれど、自分の心にまっすぐ、少し努力するだけでも、私はすてきだと思います。

私は、例えスマホを持っても、何か悩んでいる友達からメールが入ったら、すぐにかけつけてあげたいです。そして、相手の話をよく聞いて、気持ちを感じとりたいです。

スマホはいろいろな事をメールで伝えられてとても便利。けれど、気持ちを一番上手に伝えられるのは、やはり相手と直接話す事だと思います。

みなさんも、一度スマホを置き、大切な人との時間が大事という事を、思い出してみてください。